

出張報告書

平成 2 8 年 8 月 1 日

市議会議長 様

会 派 名 改革クラブ

代表者氏名 井舎 英生

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 競輪場再整備について
- 2 出張先 北九州市 小倉競輪場
別府市 別府競輪場
- 3 出張期間 平成 2 8 年 7 月 5 日～平成 2 8 年 7 月 6 日
- 4 出張者氏名 井舎英生・井上 博
- 5 てん末報告 別紙のとおり

視察報告 1

日 時： 平成 28 年 7 月 5 日（水） 14：00～16：00
場 所： 小倉競輪場（メディアホール） （北九州市小倉北区三萩野 3－1－1）

目 的： ドーム型競輪場の実態調査

- 1、 建設時期： 平成 10 年 9 月末日完成
- 2、 建設費用： 298 億円（償還完了は時期は平成 40 年度予定）
- 3、 ドームにした経緯： 建て替えを検討した時期は平成のバブルが崩壊した時期ではあるが、まだまだ余裕のある時期でありその数年前は右肩上がりの売上や入場者で、現在のような低迷期が来るとは思わなかったためどうせ造るなら日本一の競輪場として、且つ多目的ドーム型にして各種イベント等に利用すべく計画を策定した。
- 4、 使用実績： 詳細な資料はいただけなかったが、競輪事業としては他競輪場のミッドナイト競輪を受託しており（平成 27 年度実績では 80 日）、おそらく全国一の競輪の使用実績ではあるが、もう一つのイベント等については使用料の影響もありあまり活用はされていないようであった。
- 5、 課 題： 平成 18 年度より競輪事業の包括委託を行い、経費の削減に努めているが、償還が約 10 億円／年に達し、施設が大きいため維持管理費も多く非常に苦労しているようである。
- 6、 所 見： 施設は立派で日本一の施設であることは間違いない、しかし競輪全体の売り上げの低迷や施設の維持費や建設費の償還に非常に苦労しているが、同市は競艇などの公営競技をも行っていて、公営競技全体の中で処理して市の一般会計に繰出しを行っているようであり、そのため競輪場単体での数字ではなく 26 年度決算では 460 百万円の黒字となっている、しかし単年度収支では 290 百万円の赤字である。これは一般会計への繰り出しや基金の取り崩しが原因であると想像できる。
なお市の担当者や委託事業社の所長に「このドーム型競輪場を現在あなたが建てるとすればどうするか、またどの程度の建設費で出来るか？」を問うたところ、「イベント会場等に使用するため余り使用しない設備も多いがこれらを設置しなければかなり安くなると考えている、また建設時期がバブルの余波が残っていた時期でありかなり高値での建設費である。もし今、新たに競輪のみに対応した設備で建設するなら 200 億もあれば十分できるのではないか。」とのことであった。

視察報告 2

日 時： 平成 28 年 7 月 6 日（木） 09:00～10:30

場 所： 別府競輪場 （別府市亀川東町 1-36）

目 的： 別府競輪の運営方法

- 1、 運営状況： 競輪場の職員に基本的な方針を聞いたところ、「経費の削減は図らねばならないが、地元雇用対策の意味が大きいため、できるだけ委託をせずに直営で行うのが基本である」とのこと。競輪事業の運営は委託であるが、それ以外の細かなものについては直営でパート・アルバイトの雇用で職員が指導して当たっている。また地元対策については、常に地元自治会より多種多様な要望が出ているようであるが、積極的な対応はしていないようであった。

競輪場自体コンパクトなためビックレースは行い難いが、少しでもグレードの高いレースを行いたいとのことであった。

- 2、 売 上： 平成 20 年度～26 年度までの 7 年間は 123～101 億円で推移しているが、27 年は 146 億円となっている。

- 3、 一般会計への繰入： 平成 20・26・27 年度は 5 億円、21・24 年度は 3 億円、22・23・25 年度は 2 億円と売上に比べれば繰入は大きく市の財政に寄与している。但し、毎年の積み立て額は 2 億円前後であるが数年に 1 回は施設の再整備等を行っているため基金の積み立ては平成 27 年度末現在 5 億 7 千万円と少ない。

- 4、 課題 地元からは環境整備費にもっと積極局的に行うように言われているようであるが、どのような注文なのか教えていただけなかったが渋っているようであった。しかし競輪場の場所は海辺の駅からかなり遠いところであり、民家とも離れているので、本市の様な競輪ファンとのトラブルは少ないようである。

施設自体がやはり老朽化が進みまた耐震化への対策等で常に整備している。所長の言葉では、G1 クラスのビックレースを行えない（観客席が多くないため）ため、収益を伸ばすことが難しく経費の削減とサテライトの運営を中心にせざるを得ないとのことであった。

- 5、 所見 競輪場の運営に委託を出来るだけ使わず、直営で行い市民の雇用を第 1 として考えているスタンスには驚いた。委託にした方が安く事務事業も楽であることがわかりながら、あえて雇用対策をとっていることには共感を覚えた。

またビックレースが行えない状態にあるにも拘らず、黒字経営を行っているのは立派であった。